

平成 31 年度使用高等学校  
(第 1 部)  
教科書編集趣意書  
地理歴史 (日本史 B) 編

目次

	ページ
221 明成社 最新日本史 .....	1

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
221 明成社	日B302	<p style="text-align: center;"><b>最新日本史</b></p> <p style="text-align: center;">代表著作者 渡部昇一</p>

## 1、編集の趣旨及び留意点

### (1) 趣旨

平成21年3月改訂の高等学校学習指導要領「日本史B」の「目標」には、「我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」と掲げられている。本書は、この教育目標の達成を目指して編集に当たった。

### (2) 留意点

- (イ) 判型はB5判の大型を用い、視覚的効果を高めるために三段組みとした。
- (ロ) 国語の尊重という意味から、写真など図版類の解説・年表・さくいんなどを除いて基本的に縦組みにし、史料との調和もはかった。
- (ハ) 本文注の重要部分は太字（ゴシック体）で表し、それらを視覚的に把握できるようにした。また、人名については、生没年をつけ、天皇については在位期間をつけた。また、それらを原則として初出頁の下に示すことによって、人名の頁毎のさくいんにも役立つようにした。
- (ニ) 巻頭の口絵は、日本美術史上、各時代を代表する作品でしかも色彩的な効果があるものをなるべく大きく配し、生徒の興味を喚起するようつとめた。
- (ホ) 本文の記述を補足し、生徒の理解を容易にするために、原則として見開きの左頁に注の欄を設けた。
- (ヘ) 関連する記述を参照する方が理解を助けると判断される箇所には、参照頁を付した。
- (ト) 史料については、難解な部分に語釈を加え、生徒の理解に便宜をはかった。
- (チ) 写真、絵図、地図、系図、略年表、グラフなどは、本文の記述を実証的・具体的にするために豊富に用い、読みやすく見やすいものになるよう工夫した。
- (リ) 学問・文学などの著作については、必要に応じて、各時代の代表作を一覧表にして掲げ、また本文に掲載されている美術作品については、参照頁を付した。

## 2、編集の基本方針

- (1) 生徒が日本史の学習に親しみが持てるように、「日本の歴史を学ぶにあたって」と題する序文を付した。
- (2) 学習指導要領掲載の「歴史と資料」「歴史の解釈」「歴史の説明」「歴史の論述」については、1頁～2頁を用いて、各主題に即した内容を厳選して記述することにつとめた。
- (3) 世界史の中に占める我が国の位置を明確にするため、各編のはじめに概観を叙述し、世界史の動きにも考慮を払いつつ日本史の流れを把握できるようにつとめた。
- (4) 世界的視野に立つ歴史学習の重要性に鑑み、諸国との文化交流の実態、諸国の政治情勢の変化が我が国に及ぼした影響などが把握できるようにつとめるとともに、日本古来からの伝統的文化と外来文化との融合発展が、今日の日本文化に与えた影響を理解できるようにつとめた。
- (イ) 古代から現代に至るまで、我が国の歴史に重要な影響を及ぼしてきた東アジア情勢

については、記述を重視した。

- (ロ) 近代・現代については、東アジアに加えて欧米の情勢についても、我が国の歴史に関連するものは必要に応じて記述した。
- (ハ) 日本文化の特色を把握する一助として、外国より見た日本観を示す記述や史料の選択を行った。
- (5) 日本文化の特色が把握できるように、各時代の政治・経済・社会の動向と関連づけて文化史の記述に重点を置いた。
- (6) 日本文化の伝統を尊重する意味で、日本の古典尊重につとめ、また天皇に関する記述については、繁雑にならない程度に敬語を用いた。また、日本文化の流れを把握する意味において、日本の年号を主とし西暦をカッコ内に付した。
- (7) 本文の記述は、時代の特質を明確にし、系統立てて歴史の流れを把握できるようにつとめた。また、生徒の理解を深めるために内容を精選し、記述の簡潔明瞭化につとめた。
- (イ) 全体を「第1編 原始・古代」、「第2編 中世」、「第3編 近世」、「第4編 近代・現代」の4部構成とした。
- (ロ) 大項目(1~17賞)、中項目(1章につき2~6節、全部で59節)は、時代区分を中心に編成した。大項目には各時代の文化の特色を盛り込むようにつとめ、時代背景の中で文化の流れが把握できるよう配慮した。
- (ハ) 小見出し(小項目)は、記述内容の視点を明確にすることに配慮した。
- (8) 今日の日本文化の姿は、私たちの祖先がたゆまぬ努力を積み重ねて文化を継承・発展させてきたことに由来することを、全編を通じて理解させることによって、生徒が伝統文化を大切にし、それを新たに発展させようという意欲を持てるよう配慮した。